



智翠館特別コース 合格者インタビュー

(総合選抜型・学校推薦型入試編)

～石見を支える医療人を目指して～

◎インタビュアー(聞き手)

: 舘下 茂雄(智翠館特別コース部長)

◎インタビューイ(語り手)

: **Aさん**

岡山大学

医学部 保健学科検査技術専攻

総合型選抜合格

: **Bさん**

島根大学

医学部 医学科

地域枠学校推薦型選抜合格

: **Cさん**

九州歯科大学

歯学部 歯学科

総合型選抜合格



館下：皆さん大学入試お疲れ様でした。

このインタビューが

- ・ 来年再来年大学入試に挑む智翠館特別コース1, 2年生
- ・ 来年以降進学先の高校を選択する中学生

の参考になればと思いますので、できるだけ具体的にお話をしてください。

館下：いよいよ明後日卒業式になりますが（本インタビューは2/27に実施）、3年前は中学3年生でした。

Aさんは智翠館特別コースにどのようなことを期待して受験をしましたか？

Aさん：中学生の時から医療系の大学に進学したいと考えていて、大きな机、少人数のクラスで勉強ができるといった勉強をするための環境が整っていることを魅力的に思って受験をしました。





館下：3年間過ごしてみて、入学前に期待していたことは実際どうでしたか？

Aさん：机や少人数のクラスといった環境だけではなく、先生方が基本的には私達に自由に勉強をさせてくれるその一方で、勉強をする様々な場を作ってくれたことが良かったと思います。

例えば、**数理部**（大学入試の数学の問題に挑戦する講習）や**共テR部**（大学入学共通テストのリーディング問題に挑戦する講習）など、放課後や土曜日に開いてくれて、自由に参加を選択することができました。



館下：Bさんはどういった事を智翠館特別コースに期待していましたか？

Bさん：僕は中学生の頃から医学部を目指していて、この辺の高校なら智翠館だと思って入学しました。兄や知り合いの先輩方からも勉強に取り組む姿勢が良いと聞いていました。



館下：入学してみて実際どうでしたか？

Bさん：本当に思っていた通りだっただけでなく、授業もおもしろいものが多く、フレンドリーな雰囲気のある校舎だと思いました。

館下：授業で印象に残っているものは？

Bさん：色々ありますが、
それこそ館下先生の英語の授業は本当におもしろくて、
はじめは「これは英語の授業なのか？」と感じました。
遊びというか、ゲーム感覚の授業が多かったです。

館下：フレンドリーな雰囲気とは？

Bさん：職員室に質問に行った時にも
先生方が「また来てねー」という感じです。



館下：Cさんは？

Cさん：私は2人とは違って、中学校の時には夢が無くて、
ぼんやりと医療系かな？と思っていたぐらいで。
でも、医療系を目指すなら、勉強しないといけないと思ったことと、
中学校の先輩で智翠館特別コースに行った人たちからも評判が良かった
ので、自分の夢ができた時にある程度の学力をつけておくために智翠館
かなという感じで受験をしました。



館下：夢が無かったけど、
智翠館に入ってみて自分の夢が定まったという感じ？

Cさん：そうですね。
先生方に、医療系を目指すイベントを紹介してもらったり、
医学部に進学した卒業生や、保護者さんで医師をしている方に
講演をして頂いたことがきっかけで、
自分の住む地域の医療等の現状について考えるようになり、
自分の歯科医になるという夢が明確になりました。



館下：改めて、皆さんの今現在の将来の夢はなんですか？

Aさん：検査技師として、特に生理検査の技術を磨き、いずれは地元に帰り医療に貢献したいです。

Bさん：医師として、江津市の地域医療を総合医や緊急医という立場で支えて行きたいです。

館下：Bさんの地域医療を支えたいという気持ちを持ったきっかけは？

Bさん：2年生の時に1学年上の先輩が参加する医療討議部に参加した時に地域医療について知り、江津市の医療を支える上でとても重要な考え方だと思ったことがきっかけです。



館下：Cさんは？

Cさん：歯科医師となり専門性を磨き、いずれは地元に帰り、地域の健康を支えていきたいと考えています。
医療全般の知識を備え、地域の人に寄り添い、頼られるような存在になりたいです。

館下：医師ではなく、歯科医として地域の健康を支える存在になりたいという理由は？

Cさん：私の地元は特に高齢者が多い地域であり、高齢者は長生きできることよりも、健康的に毎日を過ごせることを望んでいると思います。歯があり、口元が健康であるということは、ご飯を食べたり、楽しく話をしたりする上で不可欠です。
だから私は、医師という立場よりも歯科医師という立場で地域に貢献したいと思います。



館下：今話を聞いていて思うのは、3人が自分が将来目指す職業に対する思い、そして地域を支えたいという思いを、試験のための表面的なものではなく、本当に自分ごととして、真剣に強く持っているんだなということです。
自分が良ければいい。自分がお金を稼げれば良い。自分が楽に生きていければ良いと考える人も多いと思うけど、3人とも違う。
そのような強い思いはどのように作られていったのですか？





Cさん：私は、元々地元愛が強かったのですが、インターアクト部で地域の人と関わる機会が多くあり、その中で人々の暖かさに触れることで、更に地元に対する愛情が深まり、
「この地域を失いたくない」、
「そのためには医療を充実させることで人々が地元から離れていくことを食い止めたい」と思うようになりました。

館下：インターアクト部の活動で、特に印象に残っている、「人の愛情に触れた」という経験があるの？

Cさん：インターアクト部の活動で募金活動をした際に、こちらから声をかけなくても、向こう側から声をかけてくれて、しかも寄付をしてくれただけでなく、自ら寄付する人を集めてくれた人もいました。最初は「募金してくれる人なんているのかな」と思っていたので、人の暖かさに感動しました。





館下：Aさんは？



Aさん：私が臨床検査の中でも生理検査にこだわるのは、
検体検査のような検査だと、検査自体は機械がやるが、
生理検査は検査者の高い技術が必要なので、
高い技術の生理検査を患者さんに提供できるということに、
自分がそれをやる意味が見いだせるからです。

館下：地域に対する思いは？

Aさん：小さい頃に、地域のイベントがとても楽しみで、
たくさんの大人に囲まれていた事が良い思い出です。
そういった地域の人々を支えるのは、
そこで育った私だからできることで、
医療というものが自分の身近な所で求められているなら、
それは自分がやるべきことだと考えています。
どうせやるなら自分だからできることを大事にしたい。

館下：過疎や少子化の原因の大きなものとして、就職の際に若い女性が都会に出て行くことが挙げられる中で、AさんとCさんが今の時点で、将来は地元に戻って働きたいという気持ちがどのように育って来たのかがとても気になります。もちろん、地元の人々の愛に触れてきたという経験が大きいと思うのだけど・・・
Bさんは？

Bさん：僕も地元の江津市の医療を自分の手で良くしたいと思った理由は、地元愛はもちろんありますが、島根大学の地域枠学校推薦型選抜を受験し、医療体験や論文を書いていく中で、「地域医療を充実させていけば、江津の医療をより良くできる」という手応えがあったからです。

館下：江津市の限られた医療体制の中で、しかも救急医療に携わりたいというのは、医師を目指している学生としてはかなりチャレンジングなことだと思う。だからこそ医師がなかなか集まらないと思うのだが、そのような正義感や使命感、自己犠牲感、自分の道を進む感のようなものがどのように育っていったのかが、6児の父親の私としてはとても気になるね。



館下：3人とも、総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて医療討議部チームという形で医療トピック学習やグループディスカッション、面接練習等を行ってきました。今年は昨年以上に充実した取り組みができたと思うが、医療討議部の取り組みの中で最も印象に残っているのは？





Bさん：すごい印象に残っているのは、『医療と倫理』の回は印象に残っています。京都アニメーション事件の際に大火傷を追った被疑者を医師が手術をして助けたことが、医療の進歩という観点でも意味があり、回復後出廷した際に、被疑者が遺族に謝罪をしたことから、被疑者の反省、遺族の納得という点から意味があったということに「確かに」と思いました。



Aさん：私は検査技師なので、医療討議部の医師や歯科医を目指すクラスメイトから比べると医療のサブ的な立場だけど、討議を進めていく中で、色々な立場の人と討議をするということで「患者により良い医療」に関する発想が自分の中に自然と生まれてきたことは印象に残っています。

館下：Aさんが言っているのは、他の医療職種を目指す仲間と討議することで自分の中には、はじめはなかったアイデアが舞い降りてきて、それが自分の目指す検査技師像につながったということだね。

Cさんは？





Cさん：グループディスカッションという形式は、初対面の相手とグループディスカッションをする雰囲気を作るためのルール設定がしっかりあったことも良かったし、わたしは医療全般の知識が土台にあるケアができる歯科医師を目指していたけど、入試の前は自分の歯科のことを調べるのに精一杯だった中、医師や薬剤師を目指す仲間と討議できて、自動的に医療全般の観点が自分に吸収されていった気がします。まるで、「地域包括ケア会議」に参加しているような気分になり、将来地域で歯科医として働いている姿がイメージできました。

館下：「医療討議部」は入試に向けた練習である一方で、『模擬地域包括ケア会議』でもあり、将来みんなが医療従事者になった時に必要とされる「チーム医療」の様子を体感し、その重要性を認識する場であったと思います。

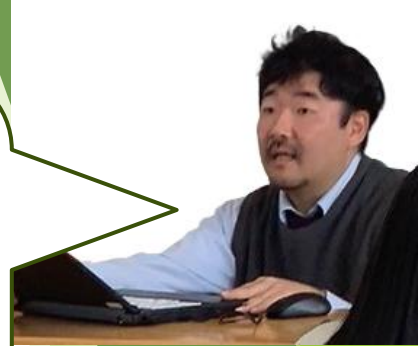
みんな、総合型・学校推薦型選抜を受験して良かったと思う？





Aさん：試験に向けて、個人面接、集団討論と様々な場面で、他者の意見に耳を傾けつつ自分の意見を述べる練習をしたことで、人と話し合うということに前向きになり、今後自分が将来働くうえでのコミュニケーション力にも不安がなくなりました。

館下：私も今までは総合型・学校推薦型選抜を受けることは、その後の一般入試も視野にいれると、大きなリスクであると考えていたけど、今年皆がの様子を見ていて思ったのが、総合型・学校推薦型を受験することによって、2月の一般入試までモチベーションを保つことができたのでは？ということ。その受験がなければ、12月、1月の共通テスト前の追い込み時期に、精神的にもたなかったんじゃないかな。



Cさん：一般入試で志望校を受験するためには、1月の共通テストをクリアしなければなりません。
でも総合型では10月に受験の際に志望校と繋がることができます。
試験の際に大学の先生や、同じ志をもつ受験生と話ができ、試験だったけど本当に楽しかった。
それが一般入試まで受験を続けるモチベーションになりました。



館下：Bさんはどう？学校推薦型受けて良かった？



Bさん：私は地域枠学校推薦型を受験する際に、江津市長さんや済生会の病院長など、地域の医療を牽引する立場の方々とお話する機会があって、自分の将来やるべきことが明確に持てるようになり、一般入試で入学する医学科の人に比べると学力は低いかもしれないが、医療全般に対する知識や、地域医療に対する使命感では負けないと思います。

Cさん：私は歯科医になりたいとは思っていたけど、出願する前はその理由があいまいで、正直志望理由書を書きはじめた時には、「なんで医師ではなく歯科医なの？」と自分でもわからなくなっていました。でも、先生方や医療討議部のメンバーたちと対話していくことを重ねて、自分が目指す地域への貢献のためには歯科医師でなければならないという理由を今は明確にもつことができています。

館下：正直私も、歯科医の役割を過小評価していたところがあったけど、今年Cさんと一緒に歯科について勉強をして、特に地域医療においては歯科医が医師に劣らない、或いは上回る重要な役割を担っていることが理解できました。皆の受験までの準備を通して、生徒が学ぶよりも教員が学ぶことが多く、本当に感謝です。

また、大学入試が試されているだけではなく、皆の人生にとって大きな学びの機会であり、有意義な時間なんだということも改めて認識することができました。

館下：それでは最後の質問になりますが・・・

自分の高校生活を振り返って、高校選びをしている中学生に役立つメッセージはありますか？

この時期、中学生、特に新中学3年生は「自分に最適な高校はどこなのか？」について頭を悩ませていると思います。でも私は、高校は科が同じであれば基本的にはどこも同じで、変わるとすれば、進学する自分自身や仲間たちによってその高校の色が作られていくと思っています。だとすると「智翠館特別コースはこういうコースだよ」って伝えたいことはありますか？みんなの言葉によって、「それなら智翠館に行きたい！」って思う中学生もいると思うし、またその逆もあっていいと思う。

そう判断できる明確なメッセージは中学生に必要ではないかな。





Cさん：中学校は定期テストが重要だし、宿題もあるので、常に自分の好きな教科も嫌いな教科も勉強しないといけないうけど、智翠館では、まず宿題があまりないので、自分のペースで勉強がしやすいと思う。
私は1年生の頃は、英検を取りたいという気持ちが強かったので、その勉強に集中することができました。宿題が少なく強制的に課される勉強が少ないので、その時その時の自分の興味や目標に合った自分の勉強をやりやすい環境があります。

館下：宿題が少ないって感じた？

Cさん：何なら「無かった」って言うてもいいレベルです（笑）

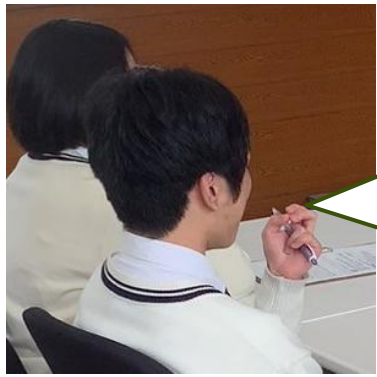
館下：「先生もっと出してよ」って思わなかった？

Cさん：「いやいや、無いのがいいんですよ！」

館下：そうかそうか（笑）
でもこれは中学生の参考になるのでいいかも。「入ってみたら宿題多いじゃん！」ってならないようにします。皆も先生の英語の定期テストの勉強の範囲、勉強しないで、平気な顔でテスト受けてたもんね（笑）

Bさん・Cさん：ごめんなさい!!（汗）





Bさん：僕も言っていていいですか？
智翠館は、先生方の方が良いというか、授業も面白いものが多くて
前向きに受けられる授業が多かったです。
勉強する上で「楽しんでやる」っていうのは重要です。

館下：例えば今後ろで嶋田先生（理科教員）が録画してるけど、
3年間授業を受けてみて、先生の授業のどこが良かった？



Bさん：嶋田先生は1年生の時に副担任だし、わからないことは何でも質問しやすく、
授業中もわからなければ、授業を止めまくって、
バンバン質問していました（笑）。

館下：ハハハ！もっと面白い、衝撃的なことってなかった？

Bさん：いや、館下先生が授業で遊びすぎていて、衝撃的すぎたので
それには かないません！

館下：さすがにホームページに「英語教員授業中に遊びすぎ」って
書けないので、もっとオブラートに包んで!!（笑）



Aさん：Bさんの言っていることに加えると・・・

特別コースは、人数も少ないということもあるので、先生と生徒の距離が近くて、先生と生徒の立場が大きく違うことがなく、先生も生徒と一緒に学んでいるという雰囲気があり、勉強を自分の目標のためにやっているというよりは楽しいから勉強ができる「勉強の積極性」というのはこのコースならではのと思います。

館下：Aさんが「勉強の積極性」をもてたのは、先生方も一緒に学ぶということ以外に何か理由がある？



Aさん：学び祭のような探究学習もそうだし、普段の講習もそうでした。良いことなのかどうか分からないけど、最初は自分が「勉強しよう」と思っていなくても、勉強をする機会が周りにたくさんあって、そういう機会に「めんどくさいな～」と思いながらも参加しているうちに、いつの間にかやってみよう！という前向きな気持ちになったということもありました。



Cさん：中学校の頃は、「智翠館特別コースに入るなら、勉強しか無いんだ、遊んだり、楽しいことなんてないんだ」って入学するのが怖かったけど、入ったら全然違って、私達のクラスが特にかもしれないけど、皆行事ごとにも本気で楽しんでいて、本当に楽しかった。勉強だけじゃなくて、楽しいこともたくさんある、ということを中学生にぜひ伝えたいです！。

館下：Aさん、Bさん、Cさん、インタビューへのご協力ありがとうございました！
中学生の皆さんにとっても大いに参考になる話だったと思います。
大学に入学してから頑張ってくださいね!!

